

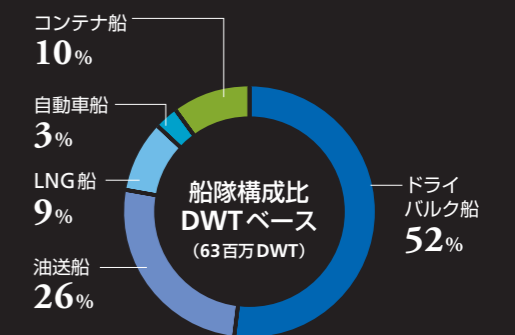
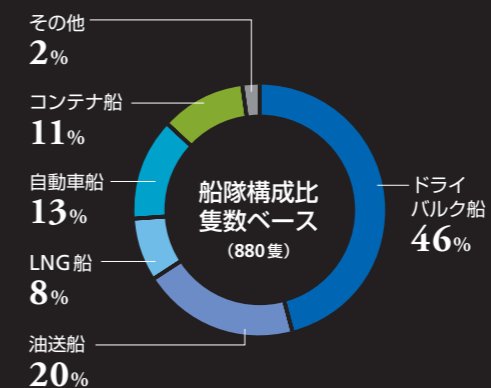
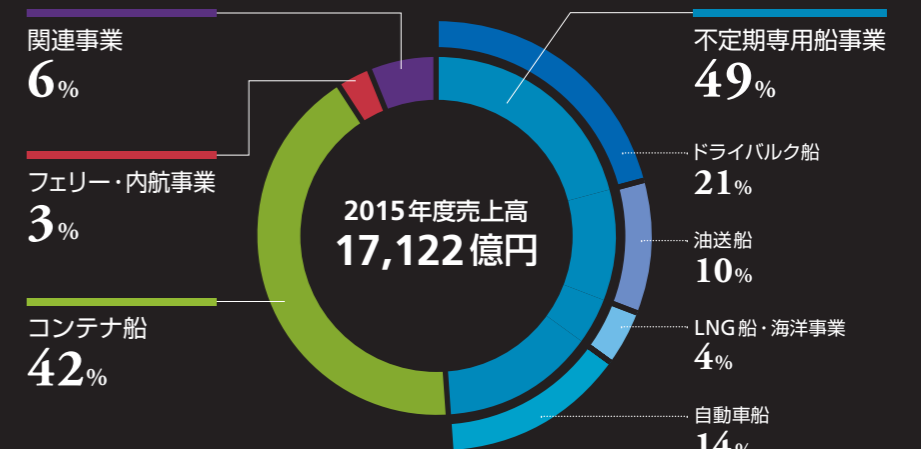
Reinvent

商船三井グループ企業理念

- 1 顧客のニーズと時代の要請を先取りする総合輸送グループとして世界経済の発展に貢献します
- 2 社会規範と企業倫理に則った、透明性の高い経営を行ない、知的創造と効率性を徹底的に追求し企業価値を高めることを目指します
- 3 安全運航を徹底し、海洋・地球環境の保全に努めます



MOL



事業内容

不定期専用船事業

(ドライバルク船、油送船、LNG船、海洋事業、自動車船)

ドライバルク船

大量のドライカーゴ(鉄鉱石や石炭、穀物、木材、チップ、セメント、肥料、塩など)を、汎用性に富むばら積み船や貨物特性に合わせた専用船など、世界最大規模の船隊で安定的に輸送しています。

油送船

原油タンカー、ナフサやガソリンなど石油精製品を運ぶプロダクトタンカー、液体化学品を運ぶケミカルタンカー、液化石油ガスを運ぶLPGタンカーなど、世界最大級の船隊でグローバルな活動を展開しています。

LNG船・海洋事業

全世界で需要が増加しているLNG(液化天然ガス)を、世界最大級のLNG船隊で安全に輸送しています。また、今後成長が見込まれる海洋事業(FPSOやFSRU)にも積極的に取り組んでいます。

自動車船

一般乗用車から建設機械まで、あらゆる自走可能な貨物を効率よく輸送できる自動車専用船を全世界で運航。最適地生産を進める自動車メーカーのニーズに的確に対応し、安定的な輸送サービスを展開しています。



【ドライバルク船】
ケープサイズバルカー VEGA DREAM



【油送船】
VLCC OMEGA TRADER



【LNG船】
GRAND MEREYA



【自動車船】
VALIANT ACE

当期の概況

ドライバルク船

鉄鋼原料船、木材チップ船、電力炭船等の長期固定型運賃契約により一定の利益を確保したことに加え、運航効率改善やコスト削減にも引き続き努めたものの、中国の石炭輸入量の減少等もあり市況は低調に推移し、前期比で損益は大幅に悪化、当期において損失を計上しました。

油送船

原油安による実需の伸びや中国における戦略備蓄需要の増加により海上輸送需要が活発となり、原油船、プロダクト船ともに市況は高水準で推移しました。プール運航による運航効率改善やコスト削減にも継続して努めた結果、前期比で大幅な増益となりました。

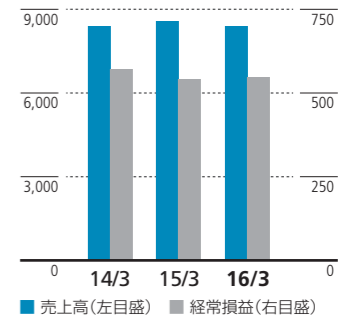
LNG船・海洋事業

長期輸送契約による安定収益を引き続き確保し、前期比で増益となりました。

自動車船

好調な経済が続く米国向けの完成車輸送が堅調に推移する一方、原油価格下落等により経済不振に陥った資源国・新興国向けの輸送が落ち込んだ結果、トレードパターンの変化に対応した運航効率改善に取り組んだものの、前期比で減益となりました。

業績 (単位: 億円)



コンテナ船事業

世界中を網羅する航路ネットワークにより、電気製品、自動車部品、衣類、家具、食品など多くの製品・雑貨をコンテナに詰めて、世界各地に届けています。

自営航路のみならず、他社との共同運航(海運大手6社により結成されたG6アライアンス等)により、寄港地や頻度を増やしてネットワークを拡充しています。

また、コンテナ輸送のバリューチェーンの一角を成すターミナル事業とロジスティクス事業も、サービス差別化のツールとして積極的に展開しています。

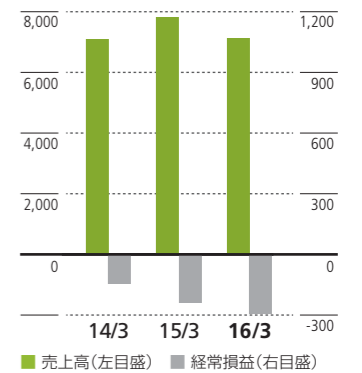


【コンテナ船】
MOL MODERN



【ターミナル】
ロサンゼルス港ターミナル

北米航路においては、アジアからの荷動きに関しては総じて堅調に推移したものの、船腹供給増により需給バランスが緩み、運賃市況は西岸、東岸向けとも大きく下落しました。欧州航路においては、アジアからの荷動きが大きく低迷、減便による供給スペースの削減に努めたものの需給ギャップは縮まらず、運賃市況は期を通して記録的な安値水準にて推移しました。アジア域内航路においても荷動きは伸び悩み、運賃市況は低迷しました。このような事業環境下、各航路において様々な合理化策を実施し運航コスト削減に努めましたが、前期比で損失が拡大しました。



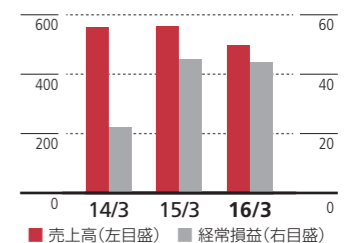
フェリー・内航事業

旅客・乗用車・貨物車(トラック等)と一緒に運び、モーダルシフトの担い手として国内物流で存在感を増すフェリー事業や、国内重要拠点を結び、工業原料、エネルギーなどを大量に輸送する内航事業を展開しています。2016年度から内航ばら積み船を不定期専用船事業へ移管したことに伴い、セグメント名を「フェリー・内航RORO船事業」に変更しました。



【フェリー】さんふらわあ さっぽろ

大洗~苫小牧航路就航船が、昨年7月末に発生した車両甲板火災事故からの復旧工事のため休航していた影響で、旅客及び貨物輸送量が減少しました。その他の航路については、旅客、貨物輸送量ともに堅調に推移しました。また、在庫調整などの影響から鋼材の輸送量が軟調に推移した結果、前期比では減収となったものの、燃料油価格の低下等にも支えられ、前期とほぼ同水準の利益を確保しました。



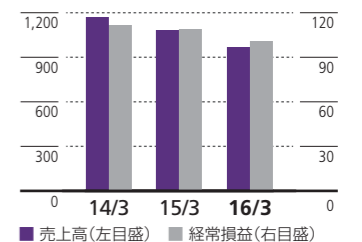
関連事業

130年余にわたり海運業を中心に蓄積してきた経営ノウハウを活かし、不動産、曳船、客船(にっぽん丸)、商社事業など、多彩なビジネスを展開しています。



【客船】にっぽん丸

不動産事業の中核であるダイビル(株)は安定的な売上を維持しましたが、昨年3月に竣工した新ダイビルに関する一時費用の増加等により、前期比で減益となりました。また、商社事業の売上が減少、一部の土木事業の採算が悪化した一方で、曳船事業の業績は堅調に推移しましたが、全体では前期比では減益となりました。



当期の実績

不定期専用船事業

(ドライバルク船、油送船、LNG船、海洋事業、自動車船)

2015年度

売上高
8,388 億円
前期比2%増 ▲

経常損益
548 億円
前期比1%増 ▲

コンテナ船事業

2015年度

売上高
7,191 億円
前期比9%減 ▼

経常損益
△298 億円
前期比 — ▼

フェリー・内航事業

2015年度

売上高
496 億円
前期比11%減 ▼

経常損益
44 億円
前期比増減なし ▶

関連事業

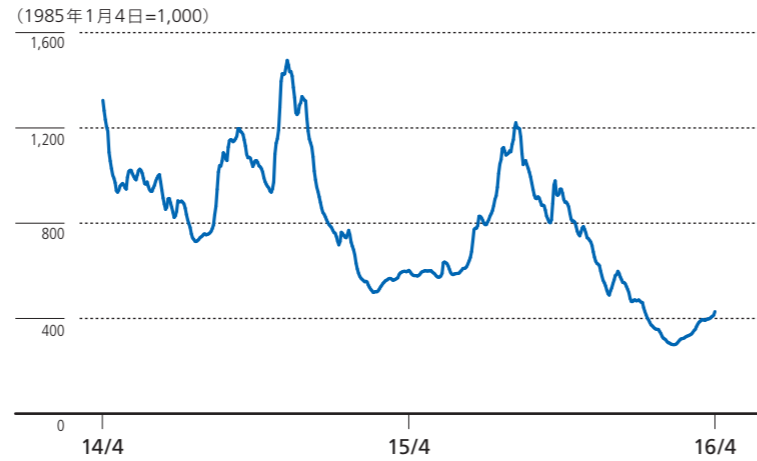
2015年度

売上高
966 億円
前期比11%減 ▼

経常損益
101 億円
前期比7%減 ▼

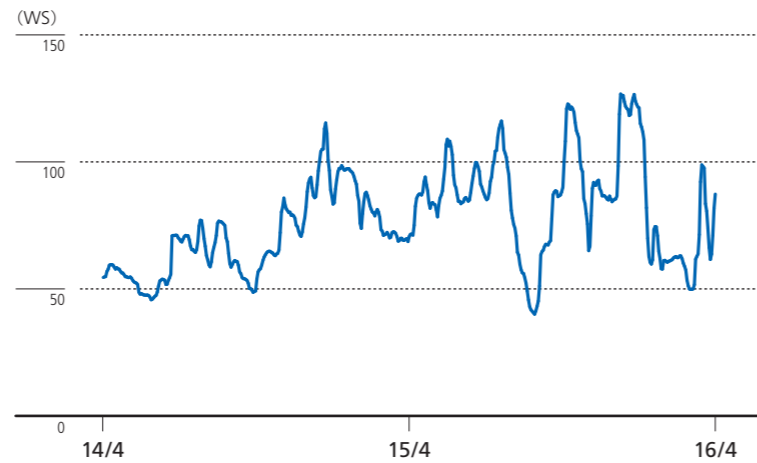
事業環境

ドライバルク船市況(BDI*1)



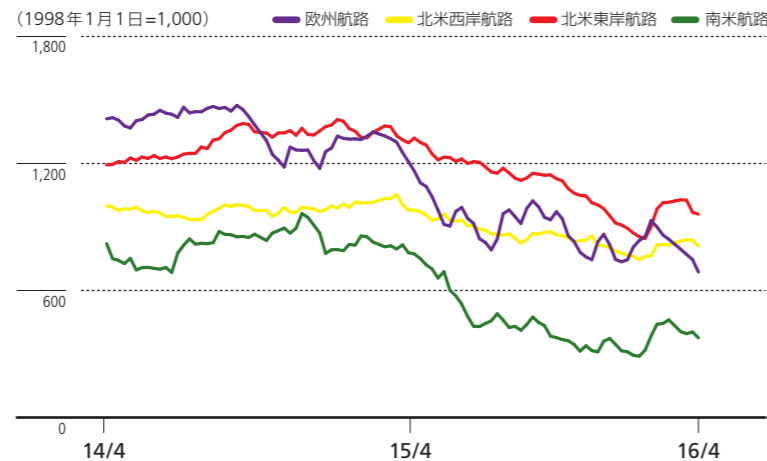
出所: Tramp Data Service等を基に商船三井作成
*1 バルチック海運指数

VLCC*2市況(ワールドスケール:WS*3) (アラビア湾→日本)



出所: 商船三井調べ
(注)2014/2015年のWSは、2016年の基準運賃に基づき、再計算した数値です
*2 Very Large Crude Carrier, 30万重量トンクラスの原油タンカー
*3 タンカー輸送契約において最も一般的な運賃指標

コンテナ船市況(CCFI*4)



出所: 上海航運交易所
*4 China Containerized Freight Indexの略

長期ビジョン

世界の海運をリードする強くしなやかな商船三井グループを目指す

MOL CHARTとは

商船三井グループ全役職員の日々の業務遂行、判断にあたって拠り所となる価値観・強み、あるべき姿を示したものです。MOL CHARTに沿った行動、判断をすることにより、当社の企業理念、長期ビジョンの達成に繋がるものと考えます。



Challenge

大局観をもって、未来を創造します

Honesty

正道を歩みます

Accountability

「自律自責」で物事に取り組みます

Reliability

お客様の信頼に応えます

Teamwork

強い組織を作ります

2015年度業績

売上高	1兆7,122 億円	自己資本比率	24.4%
経常利益	362 億円	ネットギアリングレシオ	164%
総資産	2兆2,195 億円	グループ運航船舶規模	883 隻
純資産	6,469 億円		